

aquarium animals.

N. Taga; Y. Honma; Jirasakdi Tangtrongpirot  
Annex: Rearing of seahorse, *Hippocampus kuda*,  
in aquarium.

Twee Hormchong

Session XII

Panel discussion—Collecting, packing and ship-  
ment of marine animals.

J. K. Z. Hsu; (Y. Honma); M. J. Trinidad-Roa;  
Supakorn Patanavibark

(本間義治 Yoshiharu Honma)

## 会 記・Proceedings

### 昭和 62 年度第 2 回役員会記録

昭和 62 年 6 月 19 日 (金), 於東京水産大学. 出席者: 上野, 新井, 沖山, 黒沼, 佐藤, 多紀, 丸山.

議事: (1) 報告事項. (2) 魚類学雑誌の編集方針に関する会員からの投書を受けて, 今後の編集のあり方について協議した. 会員通信や文献紹介など会員のための情報交換機能を充実させるべきだとの意見や, 和文摘要の充実などの意見が出された. (3) その他.

### 昭和 62 年度第 3 回役員会記録

昭和 62 年 9 月 3 日 (木), 於東京水産大学. 出席者: 岩井, 上野, 新井, 沖山, 佐藤, 谷内, 富永, 松浦, 丸山, 望月, 石山, 落合, 黒沼, 中村.

議事: (1) 前回, 前々回役員会記録の確認. (2) 報告事項. 庶務: 6 月 29 日に日本学術会議第 14 期会員選挙のための登録をしてきた. 審査結果はまもなく来る予定である. 会計: 34 巻 1 号の支払いを承認した. 事務センターへの業務委託にともなう支出をした. 編集: 34 巻 2 号は 9 月 10 日出版予定である. 3 号は 16 編で, 英文本論文 9, 和文本論文 1, 英文短報 6 である. 出版予定は 11 月下旬である. それを除いて手持ち論文 69 編である. (3) 会長・評議員選挙日程. 評議員: 11 月下旬発送 (事務センターから), 1 月末日締切, 2 月役員会で開票. 会長: 12 月前半発送 (庶務から), 1 月末日締切, 2 月役員会で開票. (4) 昭和 63 年度年会. 日程: 3 月 31 日 (木)—4 月 1 日 (金). 場所: 東京水産大学. 会場は例年どおりを原則に, 後日現場を見て決める (12 月に予約予定). 申し込み書は魚類学雑誌 34 巻 3 号に綴じ込み, 統一した形式でやりたい. 担当は沖山. 申し込みの日程等は従来どおり. ポスターセッションについては, その宣伝のための時間を研究発表の間に組み込む. (5) 来年度シンポジウムについて検討し, 会長から東海大学の鈴木克美氏に来年度春までにおおよその計画をまとめるよう依頼することに決定した. 出来れば 35 巻 1 号に案内を会告として掲載したい. (6) 超過頁代未払い者について, 会計の谷内より督促の手紙を出す. 今

後の処理手続きについては編集委員会で具体的に検討し, 案を作成する. (7) 事務処理委員会と, 会則等の改正のための小委員会についての経過報告があった. (8) 会員より三宅島の事態に対し要望書を出してほしい旨の要望があり, 検討の結果, 学術的見地からの要望書を出すことになった. 文案は会長・副会長で相談し作成することになった. (9) その他.

### 昭和 62 年度第 4 回役員会記録

昭和 62 年 10 月 12 日 (月), 於東京水産大学. 出席者: 岩井, 上野, 新井, 佐藤, 松浦, 丸山, 望月, 阿部, 石山, 黒沼, 中村

議事: (1) 前回記録の確認. (2) 報告事項. 庶務: 日本学術会議第 14 期会員選挙のための登録団体として認定した旨の連絡があった. なお推薦人を出すことを希望する研究連絡委員会は第 6 部水産学と第 4 部動物科学に各 1 人ずつであると回答した. 会計: 魚類学雑誌 34 巻 2 号の支払いをした. 編集: 34 巻 3 号の作業の進展状況について報告があった. (3) 評議員選挙にともなう各地区の定数について検討し, 国内の個人会員 13 人に 1 人 (小数第一位四捨五入) とすることを決定した. これによる評議員定数は 69 人である. (4) 魚類学雑誌の海外購読料 (個人会員は含まない) について検討し, 1 \$ が 120 円前後になる可能性があるとの判断から, 来年度から約 19.4% 値上げし, 86 \$ にすることを決定した. (5) 三宅島の軍用飛行場の建設問題について検討し, 下記の要望書をまとめ, 送付することを決定した.

#### 要 望 書

昭和 62 年 10 月 12 日

防衛施設庁長官 殿

日本魚類学会会長 岩井 保

富士箱根伊豆国立公園内に位置し, 黒潮に直接洗われる三宅島の周辺海域は, ウスバノドクロベラ, シンジュアナゴなど, 貴重な魚類の限られた棲息地として知られているばかりでなく, 多種多様の熱帯性魚類の

種分化の場として注目されています。このような地理的位置にある火山島周辺の独特の魚類相は単に日本のみならず世界的にも、学術的価値のきわめて高いものであります。現在計画中といわれる軍用機の夜間訓練用滑走路が三宅島に建設されると、同島沿岸の生態系は大きな影響を受け、世界的に貴重な魚類相が崩壊するおそれがあり、日本魚類学会会員の中に憂慮する声が高まっています。われわれは学術的見地から滑走路の建設には賛成し難く、その中止を強く要望いたします。

(6) その他。

**日本学術会議だより No. 6 (昭和 62 年 8 月)**

日本学術会議は210人の会員をもって組織されているが、現在第14期会員(任期:昭和63年7月22日から3年間)を選出(推薦)するための手続きが進められ

ている。

昭和62年4月の第102回総会で新たに「マン・システム・インターフェース(人間と高度技術化社会)特別委員会」が設置された。今日の「高度技術化社会」においては、機械およびソフトシステムに対する人間の役割が大幅に変化してきており、これに伴って各種のインターフェースが設計、装備されている。しかし現在のところ人間は必ずしも十分に対応・受容しきれているとは言えず、いわゆるテクノストレスなどの深刻な社会問題が生じてきている。本特別委員会はこの問題の学際的かつ総合的な検討を行う。

本会議は昭和28年以降毎年おおむね4件の学術関係国際会議を関係学術研究団体と共同主催しているが、昭和63年度には第8回国際内分泌学会議(昭和63年7月17日-23日)、第5回国際植物病理学会議(昭和63年8月20日-27日)などを我が国において開催することとし、6月16日の閣議で了解を得た。